

SID R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第1巻第37号

第50週(12月10日～12月16日)

発行年月日:平成13年(2001年)12月21日

発行:滋賀県立衛生環境センター内
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

1)全数報告の感染症(1類～4類)

感染症類型	疾患名	報告数 (50週)	累積報告数 (1週～50週)	平成12年 報告数
1類感染症	報告なし	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	4	9
	腸チフス	0	0	1
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	0	44	40
4類感染症	アメーバ赤痢	0	5	1
	急性ウイルス性肝炎	0	2	7
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	1	0
	後天性免疫不全症候群	0	5	1
	ジアルジア症	0	1	0
	ツツガムシ病	1	1	0
	デング熱	0	0	1
	梅毒	0	6	11
	レジオネラ症	0	1	2

2)定点把握の対象となる4類感染症

疾患名	定点当たり患者数		
	50週	増減	44～49週の平均
インフルエンザ	0.12		0.05
咽頭結膜熱	0		0
A群溶連菌咽頭炎	0.54		0.38
感染性胃腸炎	4.42		2.23
水痘	1.33		0.65
手足口病	0.33		0.47
伝染性紅斑	0.44		0.28
突発性発疹	0.25		0.23
百日咳	0		0
風疹	0		0.01
ヘルパンギーナ	0		0.02
麻疹	0.02		0.02
流行性耳下腺炎	0.35		0.65
急性出血性結膜炎	0		0.02
流行性角結膜炎	0		0.38
急性脳炎	0		0
細菌性髄膜炎	0		0
無菌性髄膜炎	0.14		0.07
マイコプラズマ肺炎	0.86		0.81
クラミジア肺炎	0		0
成人麻疹	0		0

*増減は、44週～49週の平均に対する今週との比較
増加 減少 変化なし

*太字は、今週の注目される疾患です。

3)今週のトピックス

患者情報

滋賀県における定点当たり患者数について、44～49週の平均と50週を比較すると、インフルエンザ、A群溶連菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘等に増加傾向が見られます。今週の全数報告の感染症として報告のあったツツガムシ病の滋賀県における発生件数は、平成11年が1件、12年が0件です。全国の13年第1週～49週の発生件数は380件です。

ツツガムシ病:

わが国で最も多いリケッチアによる感染症であり、ダニの一種であるツツガムシに刺されることによるのみ感染します。ツツガムシ病は日本に古くからある疾患で、東北地方などでは夏に発生する風土病として恐れられていました。一時は発生も減少していましたが、現在では発生地域も拡大し、年間数百人の患者が発生しています。

<病原体> オリエンチア・ツツガムシ

<発生時期> 東北・北陸では春と晩秋に、関東以西では晩秋に多い。
<感染推定場所・作業内容> 山地での農作業、山菜取りなど
<臨床症状> 全身倦怠感、食欲不振、頭痛、悪寒、発熱など
<予防> 患者が感染したと思われる場所に立ち入らない。ダニが生息する山野に入った時は、ダニの吸着の有無をチェックする。ツツガムシ病は日本以外にアジア各地、オーストラリア北部でも発生しているため、輸入感染症としての注意も必要です。



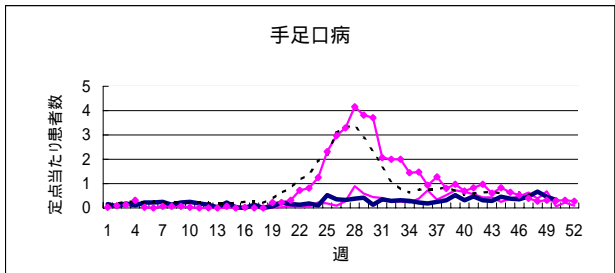
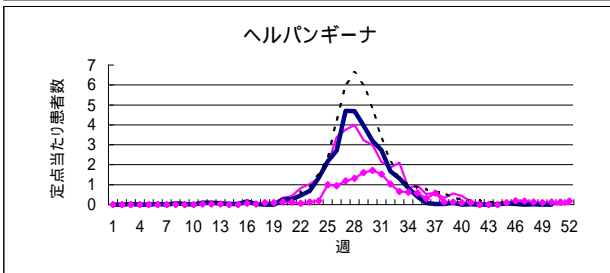
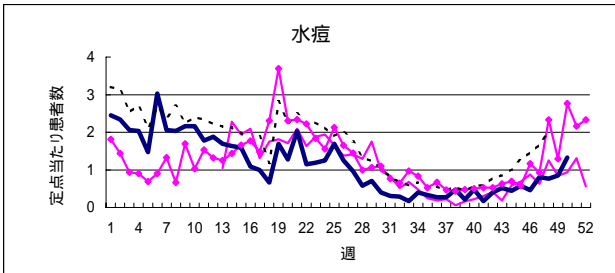
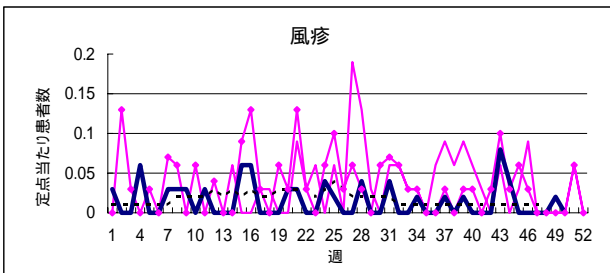
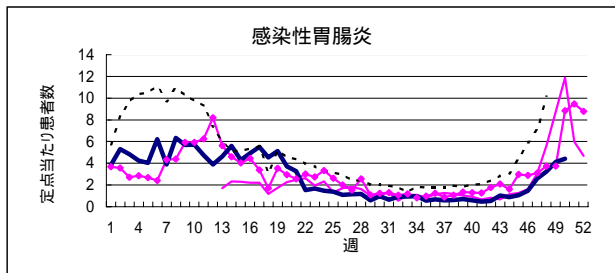
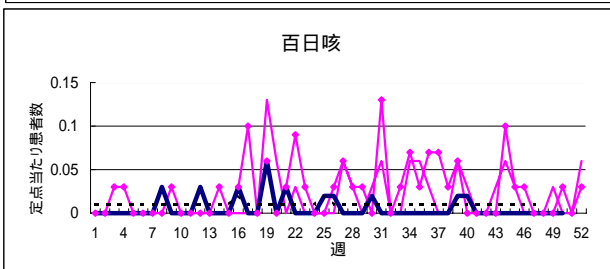
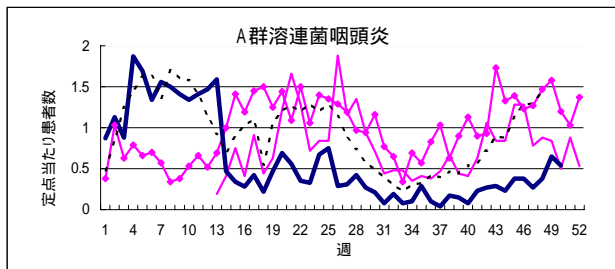
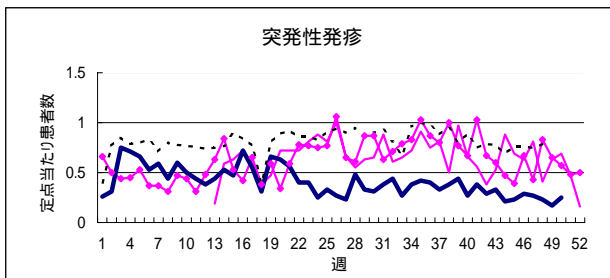
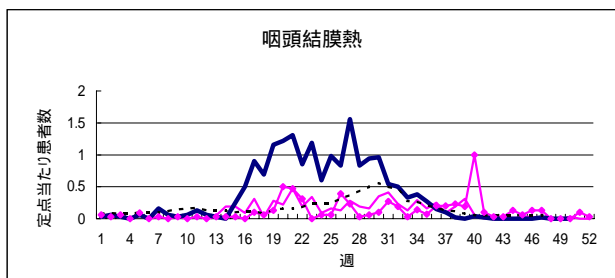
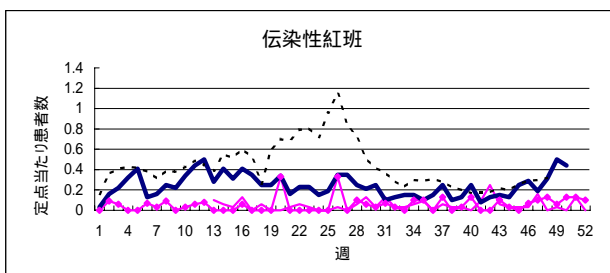
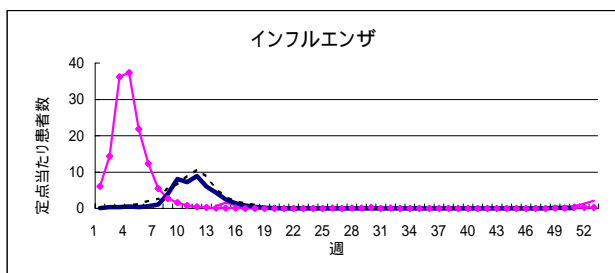
← 媒介となるツツガムシ

病原体であるオリエンチア・ツツガムシ →



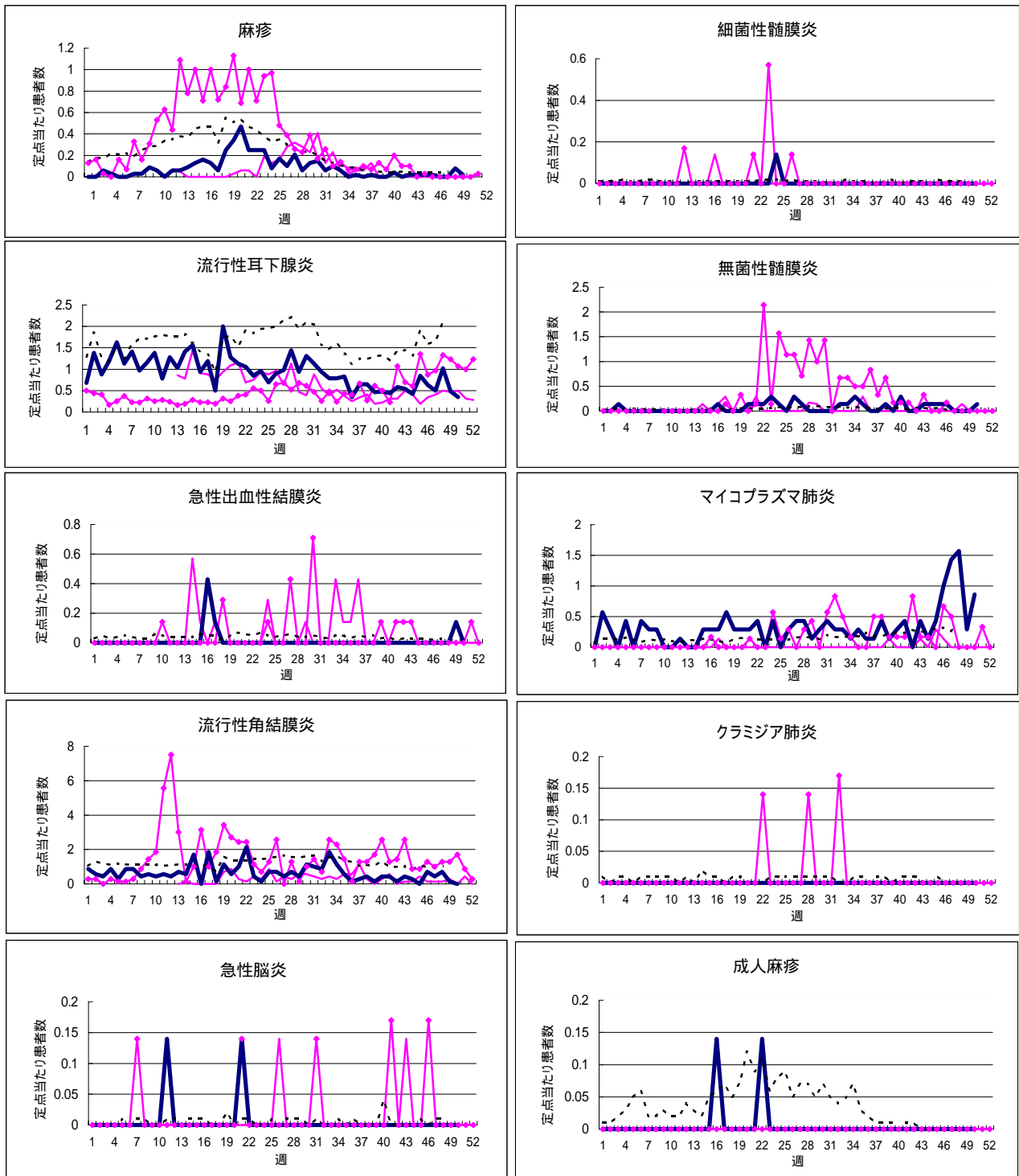
全国集計などの詳細な集計結果は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページにおいて公表されています。
(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)

疾病別定点当たり患者数(平成13年第1週～第50週)



滋賀 { H11 ————
 H12 ●●●●●●
 H13 ————
 全国 { H13 - - - - -

疾病別定点当たり患者数(平成13年第1週～第50週)



滋賀 { H11 ————
 H12 ●————●
 H13 —————
 全国 { H13 - - - - -